

こだいら ちよつとむかし

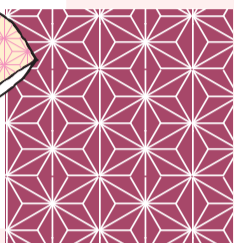


あけましておめでとうございます。

今年は赤ちゃんが生まれて一歳になるまでのいろいろなお祝いごとを、タマおばあさんに語ってもらいました。

帯祝い、お七夜

今も昔も変わらないものは、親が子どもを思う気持ちなんだよ。お腹に赤ちゃんができるよと、元気に生まれてくるように、昔は腹帯を巻いたの。犬はお産が軽いついていわれていてね、安産を願って、五か月目の最初の戌の日から腹帯を巻き始めたの。帯祝いっていうんだけど、出産する娘のことを思って実家から腹帯が届いたんだよ。



つたんだよ。仲人さんや実家の両親、近所の人たちを呼ぶこともあったね。お七夜の午前中には、おばあさんが赤ちゃんを抱いて、雪隠参りをしたの。雪隠というのは便所のことなんだよ。家の中にも外にもあったから、昔は回ったんだよ。赤ちゃんが一生お世話になるところだからって、塩や酒で清めてお参りしたんだよ。

家によっては、便所のほかに井戸やかまごにも参ったんだよ。井戸に落ちませんように、かまごでやけどをしませんようにと願ってね。ほかに家の裏の用水路(小川)などにお参りした家もあったの。

そのとき赤ちゃんには、麻の葉模様の産着を着せて、頭には新しいおむつをのせたんだよ。麻は強くて早く伸びるから、子どもがすくすくじょうぶに育ちますようにという願いが込められているんだね。

お宮参り、お食い初め、初誕生

生まれて一か月ほどたつと、赤ちゃんにお祝いの晴れ着を着せて



お宮参りをするの。

男の子は三十一日目、女の子は三十三日目に、氏神様にお参りをしたんだよ。

その家のおばあさんが赤ちゃんを抱いて、お嫁さん(赤ちゃんのお母さん)と一緒にいくんだよ。昔は男の人は行かなかったね。

この日には、お赤飯を炊いて近所の家配ったんだよ。

実家の両親を招いて、煮しめや天ぷらなんかのごちそうをしてお祝いのしたの。この辺りでは、ごちそうの最後には、必ずうどんを食べたよ。

百日目には、お食い初めをするの。赤ちゃんのために、新しい茶わんや箸をそろえ、白いご飯と魚、味噌汁や煮物なんかを作ってお祝いのするの。

まだ本当には食べられないけど、食べさせるまねをしたんだよ。白いご飯の代わりにお赤飯の家もあったね。

お膳には、きれいに洗った小石を皿にのせておくの。歯固めといって、その石をかませるまねをしたよ。歯が丈夫になって、石のように固いものでもかめますようにという意味なんだよ。

赤ちゃんが誕生日を迎える前に歩き始めると、足腰が弱くなるとか、落ち着かない子になるって、いわれていたんだよ。

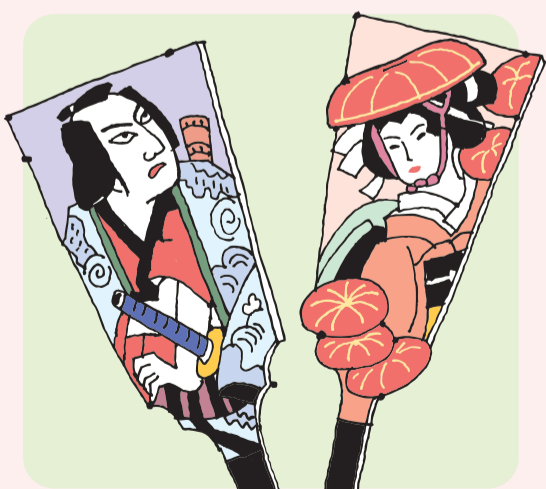
だから一升餅を風呂敷に包んで背負わせたの。一升餅というのは、一升のもち米で鳥の子の形に作ったお餅のことなんだよ。



それを背負って転ぶと、子どもに力がついて足腰がしっかりした、落ち着いた子になるんだって。お餅の代わりに重箱に入れたほた餅を背負わせる家もあったよ。

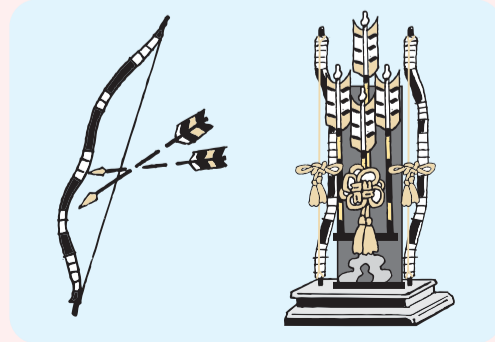
羽子板、破魔弓

初めて正月を迎える赤ちゃんには、暮れになると赤ちゃんのおし



いさんやおばあさん、それに親戚などから、男の子には破魔弓、女の子には羽子板が贈られるの。破魔弓は、弓破魔ともいうけど、弓と矢を組み合わせた縁起物で、魔除けなんだって。床の間などに飾ったよ。

羽子板は、藤娘や汐汲みなんかの押絵がしてあって、華やかだったの。歌舞伎役者の押絵の羽子板もあって、大きくて立派なものが多かったんだよ。いろいろなところから、たくさんもらうから、座敷の長押しに飾って、ずらっと並べて飾ってあったよ。とってもしきれいだね。羽子板にも悪いものを追い払うっていう意味があるんだって。子どもが無事に大きくなるように願って、みんなが贈ったんだよ。



タマおばあさんのお話は、いかがでしたか。感想をどうぞお寄せください。
協力 小平民話の会
問合せ 秘書広報課 ☎042(34)6(9)505